

第5回海事工学シンポジウム 「アジアにおける海運・造船の将来」

期日：平成16年12月10日（金）午前10：00 - 17：05

場所：日本学会議 講堂

〒106 0032 東京都港区六本木7 - 22 - 34

地下鉄千代田線「乃木坂」駅下車 青山霊園方面出口徒歩1分 電話 03-3403-6291

テキスト：一冊 5,000 円

申込方法：住所・氏名・勤務先を明記の上、FAX、e-mailまたはホームページにて
平成16年11月30日（火）までにお申込下さい。

申込先（ホームページの場合）：<http://www.engan.esst.kyushu-u.ac.jp/~kaiji/> からオンラインで

申込先（FAX、e-mailの場合）：〒816-8580 春日市春日公園6-1
九州大学大学院総合理工学研究院 経塚雄策
FAX: 092-572-2696

e-mail: kyozuka@esst.kyushu-u.ac.jp

振込み先銀行：福岡銀行 春日原支店 普通預金 口座番号 1585728

口座名義：第5回海事工学シンポジウム会計 九州大学 経塚雄策

申込方法の詳細は<http://www.engan.esst.kyushu-u.ac.jp/~kaiji/> をご覧下さい。

主催：日本学会議 船舶海洋工学研究連絡委員会

人工物設計・生産研究連絡委員会 海事工学専門委員会

共催：日本造船学会、関西造船協会、西部造船会、日本マリンエンジニアリング学会、
日本航海学会、日本海運経済学会

<シンポジウムの目的>

世界における海上物流は活況を呈していますが、とりわけ、経済が急速に拡大発展している中国をはじめとするアジア地域で顕著です。そこでここでは、アジア地区における物流とエネルギーの両面からこの地域を捕らえるとともに、ここでの造船業と海運業の今後の展開について考えることにしました。このため先ず、専門家に依頼してそれぞれの立場から現状や展望について講演して貰い、そしてそれを受けて、これから20年後のアジアの姿を考え、これに対して我が国の造船・海運がどのように対応すればよいのかパネルディスカッション形式で討議することにしました。

<プログラム>

10:00-10:05 開会挨拶 大坪英臣委員長（法政大学）

10:05-10:50 アジアにおける物流 山岸 寛（東京海洋大学）

アジア地域が資源の供給国から製品の生産国に変貌する中、海上物流のあり方も変化してきた。現在では、コンテナ・システムによるハブ・アンド・スポークの形態が主流となり、港湾や船型をはじめ、輸送サービスもそれをベースに推進されている。これらの変遷を振

り返り今後の動向を探る。

10:50-11:35 中国における海運造船業の発展・・・丁一兵(日通総研)

中国は、その GDP は年率 8% で成長し、特に沿岸部での成長は著しい。これらの発展を支えるための、海運と造船業の振興が不可欠であり、多くの造船所が作られている。我が国としてはどのように対応していくかについて考える必要がある。

11:35-13:00 昼食

13:00-13:45 アジアにおけるエネルギーの需要と供給・・・湯原哲夫(東京大学)

中国を中心に、アジアが生産力を高めるにつれ、また生活水準の向上に対応してエネルギー需要は急騰している。石油石炭、原子力などの各種エネルギー資源の量的な把握のもとでエネルギー輸送システムの今後を考える。

13:45-14:30 船舶管理のアジアでの展開・・・関根 博(日本郵船)

船舶の安全確実な運航は課題であり、今後はさらに効率的な船舶管理システムが必要とされる。また、テロや海賊などの安全保障上の問題もあり、国際的な合意の上でこれらの安全管理が十全のものとなる。

14:30-15:15 コンテナ船の今後と展望・・・許昭義(エバーグリーン)

Today (as of end of 2000), owing 128 full container vessel, Evergreen provides liner service throughout Asia, Europe, the Americas, Australia, Africa and the Mediterranean. This has made the company one of the world's largest container liner operators. Evergreen is committed to maintaining its philosophy of service world trade by providing the best transport service possible. By so doing, it is certain to play an even more important role in the world of commerce.

15:15-15:30 休憩

15:30-17:00 パネルディスカッション

アジアにおける海運・造船の将来と日本の役割

趣旨：講演を受けて、アジアの 20 年後の姿を考え、これに対して我が国はどのように対応していけば良いかを議論する。

パネリスト (モデレータ 今津隼馬(東京海洋大学))

丁一兵(中国物流)、湯原哲夫(アジアのエネルギー政策)、関根 博(海運業のありかた)、勝原光治郎(海上技術安全研究所：造船ビジネス)、小瀬邦治(広島大学：東南アジア域の物流)、大和裕幸(東京大学：産学官連携による産業再生)

17:00-17:05 閉会挨拶 今津隼馬実行委員長(東京海洋大学)